

広島大学大学院 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム  
ショートフィールドビジットを実施しました。

広島大学大学院「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」は、平成25年11月23日から24日の日程で、10月に入学したプログラム学生全員が参加して、福島県福島市・南相馬市太田川河口域、小高地区、浪江地区・相馬市において、ショートフィールドビジットを実施しました。今回のショートフィールドビジットの目的は、入学早期に津波と放射能汚染の現場を視察することにより、被災地の現状を知ること、そして、放射線災害復興を推進するグローバルリーダーとして分野横断的知識基盤修学の重要性を認識することです。

今回のショートフィールドビジットでは、飯舘村における空間放射線量の計測、南相馬市立総合病院での及川友好副院長による講義と病院内施設見学、太田川河口域、小高駅周辺、浪江地区の立ち入り制限区域など多くの地域を視察しました。

実施後に行った総括では、学生から「震災から2年半が経過したが、復興が進んでいる部分と、未だ手つかずの部分を知ることができた。放射線災害復興を推進する人材として修学に対する意識がより強くなった。」といった感想やそのほか多くの意見が述べられ、大変、充実したものとなりました。



空間放射線量の測定



ホールボディカウンタでの測定